

文化財石垣保存技術協議会会報

平成21年(2009) 第3号 —平成21年度事業報告—

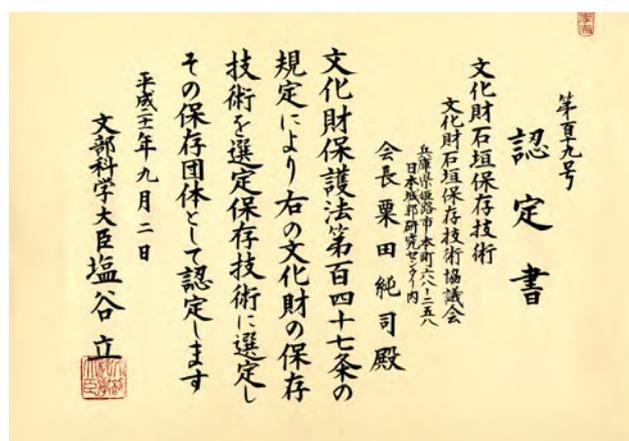
選定保存技術の保存団体として認定

文化財石垣保存技術は、平成21年9月2日付で文部科学大臣により選定保存技術に選定され、本協議会はその保存団体として認定されました。

栗田代表より一言

認定をいただき会員の皆様一言申し上げます。思い起こせば数年前より、文化財石垣の保存に関して様々な立場から問題意識を持った有志の方々を中心に伝統技術の継承や諸技術等について話し合い、その内容をもとに各方面のご協力を得て平成20年に会員の皆様とともに本協議会を設立し、これまで研修会等を重ねてきました。

このたび保存団体として認定いただいたことを契機といたしましてより一層心引き締め、文化庁や関係諸機関、全国の地方公共団体はもとより学識経験者をはじめとする有識者のご協力を得ながら、文化財石垣を後世に保存継承するため、会員の皆様と共に研鑽を重ねてゆきたいと思っております。



文化財を保存するための伝統的な技、「選定保存技術」(文化庁月刊 2009.12より抜粋)

文化財は先人の築き上げた大切な遺産であり、私たちはこれを保存して後世に伝えていく重大な責務があります。そして、この重要な責務を果たすためにも、文化財の保存に欠くことのできない伝統的な技術、または技能が不可欠です。

文化財保護法では、文化財の保存に欠くことのできない伝統的な技術又は技能である「文化財保存技術」のうち、保存の措置を講ずる必要のあるものを「選定保存技術」として選定し、その保持者や保存団体を認定する制度を設けています。この制度は、文化財を支え、その存在を左右する重要な技術を保護することを目的としており、技術の向上、技術者の確保のための伝承者養成とともに、技術の記録作成などを行おうとするものです。

また現在では、研修制度の実施や体験教室などの事業に関する支援が行われるようになり、「選定保存技術」の伝承にいつそうの充実が図られています。

(選定件数：70、 保存団体：29)

第1回研修会

日時 平成21年7月12日(日)

午後1時30分～5時30分

場所 兵庫県姫路市 日本城郭センター

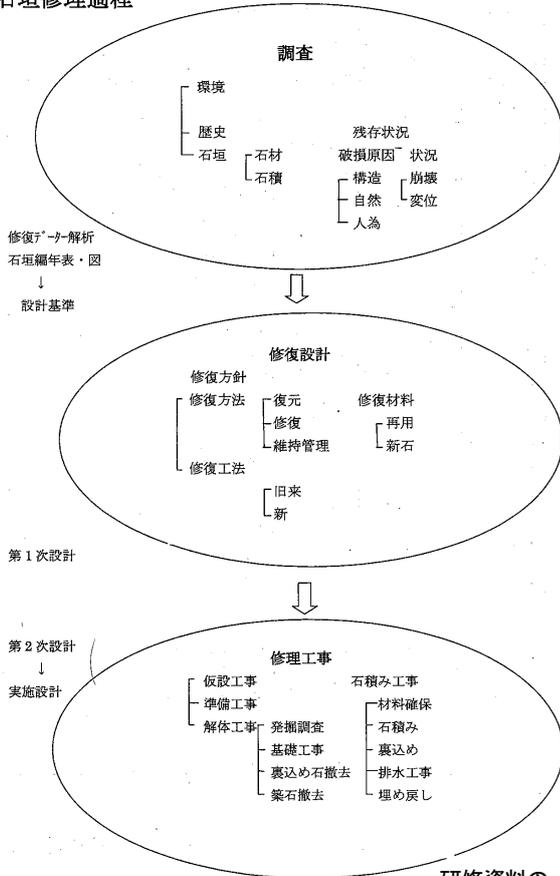
研修1 「石垣修理過程と留意点」

講師 本会評議員 田中哲雄

(日本城郭研究センター名誉館長)

- 1 調査について
- 2 修復設計について
- 3 修理工事について

石垣修理過程



田中講師による研修



研修会の様子

第2回研修会

日時 平成21年11月28～29日(土～日)

午後1時30分～4時

場所 11月28日：あいめっせホール(姫路市)

11月29日：姫路市文化センターホール

姫路市のバックアップを受け、日本遺跡学会大会との共催により、研修会プログラムが行われました。一般市民にも公開され、多くの方が参加されました。

開催趣旨

近年、地方分権の推進や多面的な地域経営が求められるなか、「文化遺産」と「まちづくり」の関係は、より綿密なものとなりつつあります。これは、トータルな視点での文化遺産の保存・活用を旨とする「歴史文化基本構想」や、「地域における歴史的風致の維持及び向上に関する法律」(「歴史まちづくり法」)の制定に象徴されるように、地域らしさや地域性の根源を、「文化遺産」に求めたまちづくりが一層重要になっているからです。

このようななか、近年、全国の近世城郭が築城400年を迎え、これを記念した地域活性化事業が各地で開催されてきました。これらは文化振興・観光振興の切り札としても社会的関心を集め、まさにいま近世城郭は、歴史を活かしたまちづくりの重要な役割を担う地域の中心的存在となっています。

ただし城郭の保存は、ソフト面でのまちづくり事業のみで達成できるものではありません。城郭の象徴でもある石垣の保存修理や復元整備などにより、伝統的技術によってどのようにして石垣を守りまた後世に継承していくかという、ハード面での取り組みも重要な課題であります。

これらをふまえた本大会では、近世城郭やこれと密接な関係を持つ石切場を活かしたまちづくり、伝統的技術による石垣の保存継承など、各地の事例についてさまざまな観点から「近世城郭の保存とまちづくり」を展望します。

11月28日(土)

1 特別講演

- (1) 大坂城遺構の保存と活用について
講師 渡辺武(元・大阪城天守閣館長)
- (2) 城と城下町を活かしたまちづくり
—石垣保存技術の継承と新たなまちづくりの視点—
講師 本中眞(文化庁記念物課)

11月29日(日)

1 基調講演

- 石垣の伝統技術を探る
講師 木越隆三(石川県金沢城調査研究所)

2 事例発表

- (1) 竜山石切場の調査と保存活用
—歴史文化基本構想策定に向けて—
発表者 清水一文(高砂市教育委員会)
- (2) 岡山城本丸の整備と活用
発表者 乗岡実(岡山市教育委員会)
- (3) 特別史跡安土城跡の調査整備事業とまちづくり
発表者 近藤滋(元・滋賀県安土城郭調査研究所)
- (4) 史跡と名勝庭園の保存と活用
—赤穂城と旧城下町のまちづくりについて—
発表者 宮崎素一(赤穂市教育委員会)
- (5) 姫路城の保存と姫路のまちづくり
発表者 大谷輝彦(姫路市立城郭研究室)

3 総合討論

コーディネーター: 田中哲雄(日本城郭研究センター
名誉館長)とパネリスト6名による



特別講演



基調講演



事例発表



特別講演



総合討論

○第2回研修会・総合討論の主な内容

「近世城郭の保存とまちづくり」をテーマに討論され、以下のような意見が交わされました。

- ・ボランティアガイドやイベントなど、地方公共団体と一般市民との協力体制の事例報告や重要性について
- ・文化財所管とまちづくり所管の連携の重要性について
- ・補充石材の採石なども含めた石垣保存のための伝統技術の重要性について

■事務局からのお知らせ

◇平成21年度総会が開催されました

平成21年7月12日（日）

主な議事

- (1) 平成20年度事業報告
- (2) 平成20年度決算報告
- (3) 平成20年度監査報告
- (4) 平成21年度事業計画
- (5) 平成21年度予算案

◇研修会が開催されました

第1回研修会 兵庫県姫路市

平成21年7月12日（日）

第2回研修会 兵庫県姫路市

平成21年11月28～29日（土～日）

第2回研修会の資料集（1000円）を販売しております。ご希望の方は下記の通り申し込み願います。

【申込方法】資料代金1000円は現金または郵便定額小為替、送料210円は切手で、両方を現金書留等の郵送で事務局に申し込んで下さい。

詳細は、姫路市立城郭研究室ホームページ

(<http://www.city.himeji.lg.jp/jyokakuken/index.html>)にも掲載しております。

◇今後の主な事業

- (1) 後継者育成事業
平成21年12月～平成22年1・2月
- (2) 第3回研修会 山梨県甲府市
平成22年1月21～23日（木～土）
- (3) 技能者技術研修（上級者）
平成22年3月20～22日（土～祝）
- (4) 石垣修理工事記録保存事業
文化財石垣の解体修理工事記録の作成

■文化財石垣関連の情報

◇「月刊 文化財」（平成21年12月号）に「石垣を記録する」（市原富士夫・文化庁記念物課）と題して、石垣の解体修理前の調査・解体修理工事に伴う記録等について論じられています。

◇「文化庁月報」（平成21年12月号）で文化庁長官と本協議会代表の栗田純司氏との対談が掲載され、高知城石垣修復現場の様子なども紹介されています。

■事務局・広報担当からお願い

○研修会などの参加感想や、文化財石垣について日頃疑問に思っていることなどありましたら下記事務局まで書面にてお知らせください。

年2回の会報ですが、可能な限りお答えしていきたいと思います。

○当協議会が実施する研修内容や項目について要望があれば書面で事務局までお知らせください。

内容を検討のうえ、各種事業に反映させていただきます。

○各地の文化財石垣情報、書籍、刊行物の発行がありましたら情報提供ください。

■入会手続き

入会をご希望の方は、まず事務局にご連絡ください。当協議会の入会申込書を送付いたしますので、必要事項を記入のうえ、下記の事務局へご返送ください。

役員会にて会員資格審査後、入会通知書及び会費納入の振込用紙を送付します。年会費（4月～翌3月）をお振込いただき、事務局で正式に受理した日から本協議会会員として登録します。

■文化財石垣保存技術協議会会員数

（平成21年11月30日現在）

技能会員	100名
技術・研究会員	49名
一般会員	4名
賛助会員	16名
評議員	8名

発行年月日 平成22年 1月

編集・発行 文化財石垣保存技術協議会

事務局住所 〒670-0012 姫路市本町 68-258

日本城郭研究センター内

TEL 079-289-4877 FAX 079-289-4890